

# 『氷をつくりたい』 5歳児 1月 伏見こども園

## エピソード

Aくんが「氷をつくりたいねんな」とステンレスのボウルの半分くらいまで水を入れていました。Aくんが「石も入れよう」「ジュズダマも入れようかな」と言いながらボウルの水の中に入れていたら、Bちゃんが来て「一緒にしてもいい?」「枝も入れよう。取ってくる」と、Bちゃんも加わり、二人でボウルの中に一緒に凍らせたいものを入れていきました。保育者がどこに置いておくのか尋ねると、Aくんが「寒くて誰も触らないところがいいから、プールのところ」と言い、Bちゃんも「そうやな」と、プールのフェンスの中の階段に置いておくことにしました。

### <翌日>

戸外へ遊びに出るとプールまで走っていくAくんとBちゃん。フェンスの間から覗いて「凍ってるかも」と嬉しそうでした。保育者がプールの鍵を開けて、二人は中に入ってボウルを見ると「氷できてる!」と喜んでいました。「氷を取ろう」と、砂場の横の机までボウルを持って行きました。氷を取ろうと、Aくんがボウルにまな板で蓋をしてBちゃんがひっくり返そうとすると、ボウルとまな板の間から水がこぼれてきました。「ああ!」と声を上げた二人でしたが「氷だけ取れるからいいやん」と、そっとひっくり返して水をすべて出し、氷だけ取ることに成功しました。Aくん「きれいに取れたな。入れたものも一緒に凍ってる」Bちゃん「分厚いな」「ホットケーキみたい」と話していました。Aくんが「もう一回つくろう」と、ボウルに水や枝などを入れて、プールに置くことにしました。この日できていた氷もまな板にのせて隣に置いておきました。

### <翌々日>

AくんとBちゃんは「また凍ってる!」「こっちもそのままや」と新しい氷ができたこととまな板に置いていた氷も溶けずに残っていることに喜んでいました。昨日と同様にボウルから氷を取り出して、二つの氷を重ねると「もっと増やしたいねん」と、またボウルに水を入れ、氷をつくらうとしていました。

氷をつくりたい(願望)

寒くてみんながさわらないところ→プールなら凍るはず(予想)

枝も入れよう(提案)

氷取れるかな(期待)

氷を落とさないように出すよ(力の調整)

ホットケーキみたい(見立てる)

氷ができてきれいに取れた(喜び)(目的の達成)

氷を重ねたい(新たな目的)

## 子どもの育ちや学び

- ・氷をつくる方法(入れ物に水を入れる)氷ができる条件(寒い場所)を経験から予想し、やってみる。
- ・ボウルからきれいに氷を取り出すために、まな板で蓋をしたり慎重にひっくり返したりする。
- ・氷ができたという成功体験から、もう一度やってみようと同じように試してみる。
- ・同じような氷ができたことから、重ねてみることにつながり、重ねる氷を増やしたいという新たな目的を見つける。

## 保育者の思い

- ・数日前から「氷がつくりたい」と、トレイに石や枝を並べ、水を入れて2、3日置いていましたが、条件がそろわなかったのか、氷はできませんでした。それでも、「氷をつくりたい」という思いをもって試していたので、氷ができたらいいなと、保育者も一緒に期待しながら待っていました。
- ・プールの水が凍り、遊んだことが、氷ができそうな場所を考えたときに「プール」となったのだと思います。
- ・氷ができるには時間がかかり、条件もそろわないといけませんが、それがわかっているからこそ、日をまたいでの期待を持ち続けたり待ったりできるのかな、と思いました。

## 家庭だったら

寒い日が続くと、外へ出るのも億劫になりますが、雪や氷を見るとワクワクしませんか?この時期ならではの自然現象の面白さを一緒に楽しんで感じてみてくださいね。